

大山町議会議長 野口俊明 様

大山町議会議員

遠藤幸子



平成 25 年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	平成 25 年 8 月 1 日 (木) ~ 2 日 (金)	
2	研 修 地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所	
3	研 修 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1) みんなで楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしよう	滋賀県大津市
		(2) 東日本大震災以降の経済とモノづくり	滋賀県大津市
		(3) 「都市再生」と「コミュニティ創生」で進める持続可能な協同のまちづくり	滋賀県大津市
		(4) 「飯田方式」から学ぶ中心市街地の再生	滋賀県大津市
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(1) みんなで楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしよう 「できない」を できるに変える。 できない理由づくりに時間をかけていないか。 心地良い仲間とだけ共にしていないか。 常に超プラス思考で知り、気づきから行動に移しているか。 地域の活性化には、そこに住む 皆んなが、自らが主体 性を持ち、地域から情報を発信し、今より ちよと上を 目指し、豊かな地域づくり構想 実現が重要。 自己分析 — 自分はどんな人生を送りたいか。</p> <p>(2) 東日本大震災以降の経済とモノづくり 地域、業態等により、被災のスタイル、その後の展開も 大きく異なっているが、その中で、日本のモノづくり系部門で 中小企業の復元力は大きく、特に製造業は被災後 3ヶ月ほどで生産体制を整えたところもある。 中小企業は 地域的な存在、有力の市民である。 被災により、深刻な状況であるけれど、地域の 活性化の担い手として、雇用を場を提供する 新たな 一歩を踏み出すことを求められている。</p>	

<p>4 調査結果 又は概要 (意見・感想)</p>	<p>(3) 「都市再生」と「コミュニティ創生」で進める持続可能な協同のまちづくり 市民の情報共有の推進。 市民会議・審議会での公募制の拡大 (無作為抽出による市民の参加) 住民協議会のコミュニティ住区7つの管理運営 職員の自己変革と向上心による、持続可能性を 持つ組織づくり。 —</p>
	<p>(4) 「飯田方式」から学ぶ中心市街地の再生 楽しく生活しやすかった街を、もう一度作ってみたいと 夢をもちながら「市街地再生開発事業」に取り組む 大切。 街が大切、と思う人をつなぐのが大切。 中心市街地の問題だからと言って、商人だけの力では できない。 街は大事、と思う人をつなぐのが大切。</p>
	<p>(5) まとめ 地域の活性、コミュニティの再生、復旧・復興。 講師の先生方、皆さん揃って、お話しされることは、 自分達の住んでいる地域が大好きである、自分達で 何とかしなければ、この思いが1-10倍強いこと。 その強い思いを廻りの人達に伝え、いっしょになって 考え、実行する事が大切である、ということ。 誰かが何とかしてくれ、ではなく、自分達で そこに住む皆でいっしょになって、汗をかき、できない をできるに変えて行くこと。プラス思考になること。 自分達の地域を大好きになって、楽しく住みやすい 町づくりをもう一度考えてみたいと感じた研修でした。</p>